

【観 光 庁】

1. 観光施設のクレジットカード対応促進支援について

国内の多くの観光施設において入場拝観料の支払いは現金払いが多い。キャッシュレス化が進む諸外国と比べても対応が不十分である。東京オリンピック・パラリンピックに向けて観光施設の入場拝観料のクレジットカード取り扱いを増やすために設備導入支援などに取り組まれない。

また関係省庁や地域と連携による実証事業の進捗または計画について明らかにされたい。

国や自治体が管理する観光施設の入場料について、クレジットカード決済ができるよう環境整備をお願いしたい。また、民間業者が管理する観光施設については、利便性向上に向け行政より入場料のクレジットカード決済導入の指導をお願いしたい。

【回答】（外客受入参事官室、観光資源課）

令和元年度に観光庁が訪日外国人旅行者に対し、旅行中に困ったことについてアンケート調査を行ったところ、「クレジットカード／デビットカードの利用」と回答したのは7.0%であり、ごみ箱の少なさ、施設等スタッフとのコミュニケーション、多言語表示、無料公衆無線LAN環境等と並んで上位の不満項目でした。今後、訪日外国人旅行者の満足度向上及び、消費機会の拡大のためにも、クレジットカード決済をはじめとするキャッシュレス環境の飛躍的改善が重要であると考えている。このような観点から、令和2年度においては、観光地や「道の駅」における飲食店や小売店等の一体的なキャッシュレス化の取り組みについて支援している。

また、博物館等の文化施設においては、文化庁と連携して「博物館等の文化施設インバウンド強化事業」に取り組み、感染症拡大防止の観点からも、地方博物館等におけるキャッシュレス・チケットレス化を支援します。引き続き、クレジットカード決済をはじめとするキャッシュレス決済環境の改善に向けた取り組みについて支援してまいりたい。

2. 国立・地方自治体所有の文化財の積極開放について

赤坂迎賓館や京都御所などの公開が進んでいるものの、諸外国と比較すると旅行者が容易に入場・貸切ができる文化財や施設が少ない。

観光ビジョンの施策の一つとして掲げた「魅力ある公的施設・インフラの大胆な公開・開放」の進捗について伺いたい。また、団体の受入が可能な施設について該当

があれば明らかにされたい。

【回答】（観光資源課）

平成 28 年 3 月にとりまとめました「明日の日本を支える観光ビジョン」において、「魅力ある公的施設・インフラの大胆な公開・開放」をめざし、我が国の歴史や伝統に溢れる公的施設を大胆に一般向けに公開・開放し、観光資源として最大限活用することを掲げている。

インフラツーリズムは、インフラが持つ魅力を高め、観光資源のひとつとして地域活性化に役立てていくとともに、インフラへの理解を深めていただくため、普段入ることができないインフラの内部や今しか見ることができない工事中の風景などの非日常を経験するツアーを展開することにより、地域に人を呼び込み、地域活性化に寄与することを目指している。

全国のインフラツアーをとりまとめたポータルサイトを国土交通省のホームページ上に開設し、各地で行われている団体受け入れ可能なインフラツアーの情報を紹介している。平成 28 年 1 月（ポータルサイト開設）で、現場見学会は 246 件、民間主催ツアーは 3 件でしたが、令和元年 9 月時点では、現場見学会は 369 件、民間主催ツアーは 68 件まで増加している。インフラツーリズムの付加価値を高め、地域や民間と連携した新たな段階に育て展開していくために必要な方策について、インフラツーリズム有識者懇談会において議論を行っており、昨年度から 5 つのモデル地区における社会実験を実施しているところである。

この取り組みを継続して進めており、例えば、皇居一般参観においては、平成 28 年 6 月より、参観定員を拡大するとともに、当日受付及び土曜日の参観を実施、京都御所においては、平成 28 年 7 月より、事前予約不要、入園制限なしの通年公開を実施するとともに、土曜日のほか、日曜日及び祝日も公開を実施、皇居東御苑においては、令和元年 6 月より、3 月から 9 月の春・夏の時期において、開園時間の延長を実施、迎賓館赤坂離宮については平成 28 年 4 月から、京都迎賓館については平成 28 年 7 月から通年で一般公開を実施、コロナの状況により、迎賓館赤坂離宮では 3 月 27 日あら、5 月 28 日、京都迎賓館は 3 月 27 日までを休館としていたが、赤坂離宮は 5 月 29 日から、京都迎賓館は 5 月 28 日より一般公開を再開、迎賓館赤坂離宮前の公園において 6 月 4 日からカフェが併設された休憩所が開業。また、皇居一般参観、京都御所においては、団体による参観も可能である。引き続き、我が国の歴史や伝統に溢れる公的施設を観光資源として最大限活用するために、一般向けに公開・開放を進めていきます。

3. 公共交通機関の利用環境の改善について

インバウンドの拡大、持続的な発展に向けては都市部から地方への旅行者の循環が重要な鍵となる。

ゲートウェイとなる空港・港湾から訪日外国人旅行者の来訪が特に多い観光地等に至るまでの公共交通機関の利用環境を刷新するため、訪日外国人旅行者のニーズが特に高い多言語対応、無料Wi-Fi サービス、トイレの洋式化、キャッシュレス決済対応、大型スーツケースへの対応の取り組み等を進め、シームレスで一貫した世界水準の交通サービスを実現させることが重要である。したがって、公共交通事業者や旅客施設管理者への促進を図るとともに、更なる支援策を講じられたい。

【回答】

インバウンドの拡大のためには、公共交通機関の利用環境を改善し、出入国の拠点である空港・港湾から、乗り換え拠点を通じて地方の観光地に至るまで、ストレスフリーで快適に移動できる環境の整備を強力に推進していくことが重要と認識している。

観光庁においては、訪日外国人旅行者の来訪が特に多い観光地に至るまでの公共交通機関の利用環境を刷新するため、国際観光旅客財源を充当し、多言語対応、無料Wi-Fi サービス、トイレの洋式化、キャッシュレス決済対応等の取り組みを一気呵成に進めるための支援を行っているところである。引き続き、公共交通機関の取り組みを積極的に支援すべく、取り組んでまいりたい。